



- ① 錦江湾を望む吉野公園 ② 開園時の吉野公園(昭和45年 鹿児島市)
 ③ 鹿児島市の鴨池陸上競技場で開催された太陽国体開会式(昭和47年10月22日)

鹿児島県の県立都市公園

自然と触れ合える憩いの場
 スポーツを楽しめる場
 半世紀にわたる県立都市公園整備が
 豊かな生活を創出

自然と触れ合える行楽スポットや、スポーツなどを楽しめる場である公園は、豊かな生活には欠かせないものです。県内には、1219カ所、1878ヘクタールの都市公園があり(平成22年度時点、そのうち8カ所が県立の都市公園です。県内初の大規模な都市公園は鹿児島市北部の県立吉野公園で、昭和45年5月16日に開園しました。

県立の都市公園を造成する気運が高まったのは昭和37年のこと。当時、県内には小規模の公園しかなく、大勢が集まってレクリエーションを楽しめる場所はありませんでした。そこで、鹿児島市の谷山地区や鹿屋市などいくつもの候補地の中から、標高234メートルの高台から錦江湾を望む優れた景観、鹿児島市中・心部に近く多くの県民が利用しやすい位置であることなどを理由に、吉野町七社の台地ななやしろが選ばれました。基本設計は昭和38年に決定し、翌39年から事業計画がスタート。構想から開園まで8年、総工費は5億円を要しました。

31ヘクタールの敷地に植栽された107種類、5万7300本(現在は140種、約7万本に増加)の樹木、広大な芝生の絨毯じゅうたん、錦江湾と桜島、さらには開聞岳や霧

広告



④親子で楽しめるサイクリングロードがある吹上浜海浜公園(南さつま市) ⑤本格コースのゴーカートが人気の大隅広域公園(鹿屋市・肝付町)
 ⑥今後、テーマゾーン(芝生広場など)や歴史ゾーンの整備が予定されている北薩広域公園(さつま町) ⑦パークボランティアによる植栽活動(吉野公園)

鳥連山までも望む絶好の眺望。吉野公園のスケールは当時の人々を圧倒しました。開園以降、家族や友達と楽しむレジャースポットとして、小学校や幼稚園の遠足の地として定着。県民に愛され続けています。また、イベント会場としても活用。平成23年春には花と緑の博覧会「第28回全国都市緑化かごしまフェア(花かごしま2011)」のメイン会場にもなり、期間中(66日間)の入場者数は約96万人(サブ会場を含む)を数えました。平成元年には社団法人日本公園緑地協会の「日本の都市公園100選」の一つにも選定されています。

吉野公園を皮切りに、県内の公園整備が次々と進められました。昭和47年の太陽国体(第27回国民体育大会)開催に合わせて運動公園である鴨池公園を整備。国体のメイン会場として使用されました。昭和50年前後には、谷山緑地、鴨池緑地公園を整備。昭和61年には県内最大の広域公園である吹上浜海浜公園が開園。平成に入ると大隅、北薩に自然と歴史をテーマにした広域公園が開園し、レクリエーションやキャンプ、スポーツ等を楽しめる場となっています。平成12年には、甲突川に架かっていた五つの石橋のうち西田橋を移設復元した石橋記念公園が鹿児島市内に開園。隣接する^{また、}洲公園(市が高麗橋と玉江橋を移設とあわせて、石橋の歴史や技術を伝えるとともに、夏には水に親しむ格好の場としてにぎわっています。

いまでは、多くの県民のための癒やしの空間が、県内各地に広がりました。

現在、吉野公園では、パークボランティアの方々による花苗の植え替えやガイドが行われるなど県民との協働による管理運営が行われています。今後、それぞれの公園でこの輪が大きく広がり、皆さんの手によって育ち、愛され続ける都市公園となることが期待されます。

鹿児島県の県立都市公園

公園名	所在地	開園日	現在の供用面積
吉野公園	鹿児島市	昭和45年5月16日	30.9ヘクタール
谷山緑地	鹿児島市	昭和46年4月1日	14.8ヘクタール
鴨池公園(運動公園)	鹿児島市	昭和47年4月1日	19.4ヘクタール
鴨池緑地公園	鹿児島市	昭和49年4月1日	6.0ヘクタール
吹上浜海浜公園	南さつま市	昭和61年4月17日	75.7ヘクタール
大隅広域公園	鹿屋市・肝付町	平成6年7月15日	47.2ヘクタール
石橋記念公園	鹿児島市	平成12年4月25日	1.8ヘクタール
北薩広域公園	さつま町	平成14年4月20日	41.3ヘクタール



石橋記念公園(鹿児島市)